

令和7年7月3日

相生市議会議長 様

会 派 名 輝相会

代表者名 森下 高明 (副代表)

出張報告書

政務活動費により調査研究、研修、要請・陳情活動、会議のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

氏 名	中野 有彦 角石 茂美 今井 大 池田 勲 森下 高明 宮艸 真木 土井 本子	
日 程	令和7年6月30日から 令和7年7月2日 まで3日間	
月 日	調査研究、研修、要請・ 陳情活動、会議先	調査研究、研修、要請・陳情活動、会議 項目
6・30	北海道旭川市	I C Tパークについて
7・1	北海道稚内市	タブレット端末を活用した議会運営に ついて

政務活動 項目	支出額 (7名分)
調査研究、研修、要請・陳情活動、 会議	894,670円



視察、研修、要請・陳情活動、会議の成果

(資料等添付のこと)

ICTパークについて（北海道旭川市）

- ・事業に取り組まれた経緯について

中心市街地の歩行者数が減少したために、再び賑わいを取り戻すためDXを活用することに至り、総務省の「地域課題解決型ローカル5G等の実現に向けた開発実証」事業を活用して「eスポーツ」に着目。拠点となる「ICTパーク」を開設した。

- ・事業の内容について

開設の狙いは「新たな賑わいの創出」「ICT人材の育成・交流」そして「ICT産業の活性化」の3つを核としている。

賑わい創出の目玉として、約180人収容の北海道最大級の劇場型eスポーツスタジアムを開設。ICT人材の育成に活用できるeスポーツ用のトレーニングジムも完備。施設を利用してICT企業や教育機関と連携したプログラミング教室なども開始。ICT産業の活性化に向けては、NTT東日本北海道事業部の「スマートイノベーションラボ北海道旭川ルーム」を併設。

- ・事業の効果について

2021年度開設以来、eスポーツ大会や交流イベント、コンテスト、人材教育などICT関連における街中のハブとして利用が増加。プログラミングなどの体験事業では、2023年度は初年度に比べて事業回数、参加者共に2倍となっている。

- ・今後の課題及び取組について

ICTパークを通じて、「賑わいの創出」「人材育成」といった地域課題解決はもちろんeスポーツ振興やICT人材育成、ICT企業の誘致や交流促進、子どもたちへ学習、高齢者のデジタルデバインドへの対応など、多岐にわたる取り組みを連動させている。

今は、国の補助金や市の予算を投じている運営についても、将来的には独立採算で自走させたい。

- ・所感について

ICTパークの発想は素晴らしいが、相生市で運営するとなると、少し荷が重い。しかし、この事業の中の「人材育成」に関しては、相生っ子学び塾事業でのプログラミング教室を開設されることに通じていくと考え、持続できるように推進したい。

視察、研修、要請・陳情活動、会議の成果

(資料等添付のこと)

タブレット端末を活用した議会運営について（北海道稚内市）

- ・事業に取り組まれた経緯について

議会改革の一環として、議会における ICT 化及びペーパーレス化を推進するために各議員へタブレット端末を貸与し、同時に文書共有システムを導入することで、時間と場所を問わず、議案書の各種資料が閲覧できる環境を整える。

さらに、システムの検索機能を活用し、時間をかけずに適切な資料を用い説明することが可能となり、議員活動の向上が図られる。

- ・事業の内容について

タブレット端末の導入に向けて、「導入経費」「ランニングコスト」「財源の捻出」「タブレット端末の学習会」などを検討事項とした。

運用システムを選定して、タブレット端末導入に向けての学習会（実技演習を含む）を実施した。

- ・事業の効果について

情報伝達がスムーズになり、各議員間でのやりとりも見受けられる。

計画書、予算書、決算書などの印刷経費が削減された。

- ・今後の課題及び取組について

議案を比較検討する時の画面の問題（画面操作の不慣れや画面の大きさ）常に持ち歩かなければならない。

災害時のツールとして利用したい。

議員作成の文書などと、ワード、エクセルとの互換性を確立したい。

- ・所感について

議会運営にタブレット端末を活用することによるメリットは少なからずあり、近い将来、相生市でも導入されると考える。画面操作の不慣れによるトラブルも時間が解決してくれるでしょう。